

神の聖なる所でともし火をともし

I. 神は光です。そして、キリストにある信者は神の子供たちとして、光の子供たちです:

Iヨハネ1:5 さて、私たちが彼から聞いて、あなたがたに伝える知らせはこれです。すなわち、神は光であって、神の中には少しの暗やみもありません。ヨハネ12:36 あなたがたは、光がある間に、光の子となるために、光の中へと信じなさい。エペソ5:8 なぜなら、あなたがたはかつては暗やみでしたが、今は主の中で光であるからです。光の子供たちとして歩きなさい。

A. 光は、表現における神の性質です。

B. 光は、神の輝き、神の表現です。神が表現される時、その表現の性質は光です。

C. 神は光ですから、私たち、神の子供たちは、光の子供たちです。私たちは、光の中へと信じ、光の子たちとなりました。

D. 神が光の中におられるように、光の中を歩くとは、神ご自身である神聖な光の中で生活し、歩み、存在することです。Iヨハネ1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

II. 予表では、神の聖なる所でともし火をともしことは、クリスチャンとして集会する適切な方法を表徴しています:

A. 幕屋は、神の住まいのための場所であり、またイスラエルの子たちの集会のための場所でした。このゆえに、それは「集会の天幕である幕屋」と呼ばれました:

出25:8 彼らに私のために聖なる所を造らせなさい。それは、私が彼らの中に住むためである。

1. いつであれ私たちが共に集まって、召会として集会するとき、その集会は神の住まいです。

マタイ18:20 二人または三人が私の名の中へと集められている所には、私がその中にいるからである」。

2. 私たちの集会は、神の聖なる所、すなわち、聖所です。Iコリント14:25 (全員が集会で預言している所に未信者が入って来ると、)その心の秘密があらわになり、こうして彼はひれ伏して、神を礼拝し、まことに神はあなたがたの間におられる、と言い表すでしょう。

B. 集会する適切な方法とは、ともし火をともしこと、すなわち、光を放つことです。私たちが召会の集会の中で行なうあらゆる事は、聖なる光を昇らせることであるべきです。

ルカ11:33 ともし火をつけた後、それを穴蔵や升の下に置く者はいない。入って来る人にその光が見えるように、燭台の上に置く。

Ⅲ. ともし火をともすことは、祭司の奉仕です：出27:20 また、あなたはイスラエルの子たちに命じて、叩いて取ったオリーブの純粋な油を明かりのために持って来させ、ともし火を絶えず燃やしておかなければならない。21 集会の天幕の中、証しの箱の前にある垂れ幕の外側で、アロンとその子たちは、夕から朝まで秩序正しく、エホバの御前でそのともし火を整えなければならない。それは、イスラエルの子たちが代々にわたって守るべき永遠のおきてである。

A. 聖所で、聖なる人が、聖なるともし火をともす必要があります。

B. 祭司とは、神のために絶対的であり、完全に神によって所有されており、完全に神のために生活し、存在する人です。あらゆる面において、あらゆる点において、彼の唯一の関心は神です。

I ペテロ2:5 あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。

9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王なる祭司の体系、聖なる国民、所有として獲得された民です。それは、あなたがたを暗やみから、驚くべき光の中へ召してくださった方の美徳を、あなたがたが告げ知らせるためです。啓1:6 私たちを王国とし、彼の神また父の祭司としてくださった方に、栄光と権能が永遠にわたってあるように。アーメン。5:9 彼らは新しい歌を歌って言う、「あなたはその巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい。なぜなら、あなたはほふられ、その血によって、あらゆる部族、言語、民族、国から人々を神に買い取って、10 彼らを私たちの神のために王国とし、祭司とされたからです。そして彼らは地上で王として支配します」。

C. ともし火をともす人とは、神によって所有されており、神をもって浸透されており、絶対的に神のために生きる人です：

1. そのような人が神の聖なる所で言う事や行なう事は何であれ、ともし火をともすことです。彼の行為すべては、ともし火をともすことです。

2. 聖なる祭司が召会の集会で語る時、光が昇ります。そして、聖なる所は光に満ちます。

I コリント14:19 ところが召会の中で、他の人をも教えるために、私は万の言を異言で語るよりも、思いをもって五つの言を語りたいたいです。マタイ5:14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。15 人はともし火をともして、それを升の下に置くことはしない。むしろ、燭台の上に置いて、家の中にいるすべての人を照らす。16 同じように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。それは、彼らがあなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父に栄光を帰すためである。

IV. 神の聖なる所にある光は、天然の光でもなく、人工の光でもありません。それは、神聖な光、聖なる光、真の光、すなわち、神ご自身です：ヨハネ1:4 彼の中に命があった。この命は人の光であった。5 光は暗やみの中に輝いている。そして暗やみはそれに打ち勝たなかった。9 それは真の光であった。それはすべての人を照らすために、世に来た。

啓21:23 都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである。24 諸国民はその光によって歩き、地の王たちは彼らの栄光をそこに携えて来る。

A. 今日のクリスチャンは、多くの種類の天然的で人工的な光によって分裂しています。

イザヤ50:10 あなたがたのうち、だれがエホバを畏れ、だれが彼のしもべの声を聞くのか？だれが暗やみの中を歩いて、光を持たないのか？エホバの御名に信頼し、自分の神に依り頼め。

11 見よ、あなたがたはみな火をともし、たいまつを身に帯びて、自分の火の光の中を、また自分がともしたたいまつの中を歩く。あなたがたはこれを私の手から得て、苦しみのうちに倒れ伏す。

Ⅱコリント11:14 しかし、驚くには及びません。なぜならサタン自身、光の天使に偽装するからです。

B. 私たちはキリストのからだを建造するために、唯一の真の光、すなわち、私たちの贖い輝く神の光の下で生活し、歩かなければなりません。エペソ5:8 なぜなら、あなたがたはかつては暗やみでしたが、今は主の中で光であるからです。光の子供たちとして歩きなさい。

V. 神の光は聖なる所にあり、この光の中で、私たちは光を見て、また物事の真相を見ます。私たちは神が見るものを見て、彼の道を知ります：

詩36:9 あなたと共に、命の源泉があり、あなたの光の中で、私たちは光を見るのです。

A. 「神よ、あなたの道は聖なる所にあります」(詩77:13)：

1. 神の道は隠されており、彼の小道と彼の足跡は人に知られません。詩77:19 あなたの道は海の中にあり、あなたの小道は大水の中にあり、あなたの足跡は知られませんでした。

2. 神の道は聖なる所の中で、すなわち、私たちの霊の中と召会の中で啓示されます。

3. 私たちが霊を活用し、召会の中に生きるとき、神の道は私たちに対してはっきりとします。

B. 「私がこれを理解しようと考えたとき、私の目にそれはめんどろなことであった。私が神の聖なる所へと入り、彼らの最後に気づくまではそうであった」(詩73:16-17)：

1. いったん私たちが聖なる所の中(霊の中と召会の中)にいるなら、状況についての別の見方、特別な了解を持つでしょう。

2. 私たちの霊の中また召会の中で、神の光の照らしの下で、私たちは神聖な啓示を受け、すべての問題の説明を得ます。

VI. 私たちが召会の集会の中で真にともし火をともしことを経験するときはいつでも、特定の要素があります。それは三一の神の具体化、神聖な性質、引き上げられたイエスの人性、キリストの霊です：コロサイ2:9 なぜなら、キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいるからです。

Ⅱペテロ1:4 彼はその栄光と美德を通して、尊く、際立って偉大な約束を、私たちにすでに与えてくださっています。それは、これらの約束を通して、あなたがたが情欲によるこの世の腐敗から逃れて、神聖な性質にあずかる者となるためです。

ローマ1:3 彼の御子に関するものです。この方は、肉によればダビデの子孫から生まれ、4 聖別の霊によれば、死人の復活から、力の中で神の御子と明示された私たちの主イエス・キリストです。

8:9 しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。

A. 神の聖なる所にある光は、燭台から出てきます。燭台は三一の神の具体化を表徴します。

出37:17 また、彼は純金の燭台を作った。その燭台は、その台と幹と共に、打ち物作りで作り、その盃、萼、つぼみは燭台と一体にした。

B. 光は金から、すなわち、キリストの神聖な性質から出てきます。

ヨハネ1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

8:12 こうして、イエスは再び彼らに語って言われた、「私は世の光である。私に従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。

C. キリストは金(神聖)ですが、油をもって燃えるのは、灯心によって表徴される彼の人性です。

燭台の光は、灯心が燃えることからきます。古代に灯心は植物の材料で作られました。灯心はキリストの人性を表徴します。…キリストは金(神聖)ですが、油をもって燃えるのは、灯心によって表徴される彼の人性です。もし灯心が油で浸透されていなかったなら、光を発するのではなく煙るでしょう。

D. 油は、神の霊を表徴します。神の霊は、手順を経過して、キリストの霊となりました：

1. 油は、オリーブの木から出てきます。オリーブの木は、キリストを表徴します。

ローマ11:17 ところが、もし枝の中のあるものが折られて、野生のオリーブの木であるあなたが、彼らの間に接がれ、オリーブの木の根の豊かな養分に共にあずかる者となったとしても、詩104:15 すなわち、人の心を元気づけるぶどう酒、顔を輝かせる油、人の心を支えるパンである。

2. オリーブが手順を経過してオリーブ油を生み出すように、神の霊は、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活を含む手順を経過して、キリストの霊となりました。
3. 私たちが集会において発表するものは何であれ、オリーブの木の純粋な油を伴っていなければなりません：Iコリント2:12 ところが私たちは、この世の霊ではなく、神からの霊を受けたのです。それは、神によって私たちに、恵み深く与えられた事柄を、私たちが知るためです。13 私たちがそれらの事柄を語るのは、人の知恵によって教えられた言においてではなく、その霊によって教えられた言においてであり、霊の事柄を霊の言で解釈するのです。
- a. 私たちは、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架、復活において、彼をオリーブの木として経験する必要があります。これは、キリストが手順を経たことの各面が、私たちの経験となる必要があることを意味します。ローマ11:17 ところが、もし枝の中のあるものが折られて、野生のオリーブの木であるあなたが、彼らの間に接がれ、オリーブの木の根の豊かな養分に共にあずかる者となったとしても、
- b. 私たちは、十字架を私たちの中で働かせる必要があります。それは、私たちが純粋なオリーブ油を得るため、すなわち、肉体と成ることと十字架を経過し、復活の中へと入った油を得るためです。IIコリント1:8 兄弟たちよ、アジアで私たちに降りかかった患難について、あなたがたに知らずにいてもらいたくありません。すなわち、私たちは極度に、耐えられないほどに圧迫されて、生きる望みをさえ失ったほどです。9 実に、私たちは自ら、自分自身のうちに死という答えを持ちました。それは、私たちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした。10 絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、私たちの体に現されるためです。4:11 なぜなら、私たち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、私たちの死ぬべき肉体に現されるためです。12 こうして、死は私たちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです。ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、11 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

E. 聖なる所で集会してともし火をともしことは、クリスチャン生活における私たちの霊的な経験のあらゆる面を含みます。ガラテヤ2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。Iコリント6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。 5・金

VII. 祭司が神の聖なる所においてともし火をともすための資格は、祭司の衣によって表徴されるキリストの表現です：出28:2 そして、あなたの兄弟アロンのために、聖なる衣を作って、栄光のため、また麗しさのためとしなければならない。

A. 祭司の衣の意義は、祭司の体系においてキリストを表現することです：

1. 私たちはキリストを、三一の神の具体化、キリストの神聖な性質、引き上げられたキリストの人性、キリストが経た手順のすべての段階を伴うキリストの霊として持っているだけでなく、キリストの表現も持っています。
2. 祭司が神の聖なる所においてともし火をともすための資格は、キリストの表現です。

B. 衣は、祭司の体系から生かし出されるキリストを表徴します。

ガラテヤ3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

C. 祭司の衣はおもに、栄光のため、また麗しさのためであり、キリストの神聖な栄光と人性の麗しさとの表現を表徴します：

1. 栄光は、キリストの神性(彼の神聖な属性)と関係があります。また麗しさは、キリストの人性(彼の人性の美德)と関係があります。ヨハネ1:14 そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。ヘブル1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであって、彼の力ある言葉によって、万物を維持し担っておられます。
2. キリストの神性は、祭司の衣の金によって予表されており、栄光のためです。彼の人性は、青色と紫色と緋色の撚糸、また細糸の亜麻布によって予表されており、麗しさのためです。
3. キリストの神聖な栄光と人性の麗しさを表現する生活は、私たちに聖別し、資格づけて、神の聖なる所においてともし火をともすという祭司の奉仕を完成します。

VIII. 信者たちが集まる目的は、神の聖なる所を持ち、その中で資格づけられた祭司たちがともし火をともして、私たちにキリストのさまざまな面のビジョンを持たせ、また神の内側にあるキリストの深みの中へと入る道を見せることです。

出25:23 また、あなたはアカシア材の机を作らなければならない。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半である。31 また、あなたは純金の燭台を作らなければならない。その燭台は、その台と幹と共に、打ち物作りで作らなければならない。その盃、萵、つぼみは、燭台と一体でなければならない。

30:1 あなたはまた、香をたく祭壇を作らなければならない。それをアカシア材で作らなければならない。6・土

## 経験(結婚生活およびBH、SHを含む家庭生活編):

- ① 詩篇73:16-17 私がこれを理解しようと考えたとき、私の目にそれはめんどろなことであった。私が神の聖なる所へと入り、彼らの最後に気づくまではそうであった。

Iヨハネ1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

いったん私たちが聖なる所の中(霊の中と召会の中)にいるなら、状況についての別の見方、特別な了解を持つでしょう。私たちの霊の中また召会の中で、神の光の照らしの下で、私たちは神聖な啓示を受け、すべての問題の説明を得ます。

あなたが天然の命の中で光を失い暗闇の中にいる時、自分の配偶者について、家庭環境について、職場環境について、あるいは学校の先生やクラスメイトについて不公平感を感じ、不平不満で満たされます。あなたは考えれば考えるほど、ますます暗闇に引きずり込まれていき、かえって不平不満は増加します。このような時の唯一の解決は神の光です。神の光は、私たちの霊の中と召会生活の中にありますので、あなたは兄弟姉妹と共に霊を活用して、御言葉を祈り読みし、詩歌を賛美し、主を享受してください。主を享受する中で、照らされ暴露されたあなたの罪、弱さ、欠点、信仰に基づかない生活習慣などを告白し、イエスの血を適用してください。神の光はあなた自身を照らした後、あなたの周りの環境を照らし、その真相をあなたに見せることができます。そうすれば、あなたは苦難があっても、主と共に平安の中で力強く前進することができます。アーメン!

- ② ガラテヤ3:27 なぜなら、キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着たからです。

祭司が神の聖なる所においてともし火をともしための資格は、祭司の衣によって表徴されるキリストの表現です。もし私たちが日常生活でキリストの表現を持たないなら、召会の集会で行なうことは何であれ偽善となるでしょう。集会で私たちが語ることも活動も偽善となるでしょう。もし私たちが祭司の衣を持っていないなら、私たちにはともし火をともし資格がなく、装備もされていません。祭司が聖所でともし火をともしための資格はキリストの表現です。

あなたは召会の集会でともし火をともして兄弟姉妹に光を解き放つために、まず、日常生活(結婚生活、家庭生活、在職生活、学生生活)で、毎朝復興され、毎日主と共に生活するために主の御名を呼び、主と交わり、キリストを享受し、キリストを表現する生活を維持する必要があります。祭司が聖なる所でともし火をともし資格は、祭司の衣、すなわち祭司が日常生活でキリストを大きく表現することです。祭司の務めのために、あなたは自分の生活に注意を払う必要があります。

573 祈り—香をたく(英791)

- 1 さい司のつとめはしんせいで高しよ;  
つねにかみをあおぎ, かみに香たく!  
(復)かみに香たく! つねに香たく!  
ともし火あかるくし, かみにうたう!
- 2 せい所のひかりは, ともし火のひかり,  
さい司はこうをたき, しょく台ともす!
- 5 みことば読むとき, わがうちを照らし,  
ともし火はともって, ひかり満ちる。
- 6 しい歌で主をほめ, さい司のよううたう;  
あいとめぐみの主をまんきつする。
- 7 いのりで香をたき, せい書でひかり得,  
しい歌でさん美して, その霊ながす。

791. Prayer - Burning the Incense

- 1 The priest's position holy is;  
He sacrifices e'er to God,  
Beholds His beauty, incense burns  
Of prayer before the Lord.  
(c) Let us the incense burn  
Of prayer before the Lord;  
The lamp we'd light, through day and night  
Our praise to Him outpoured.
- 2 No natural light, but just the lamp  
Within the holy place gives sight;  
Whene'er the priest the incense burns,  
The lamp he too must light.

573 禱告—焼香

- 1 祭司職分神聖高尚! 常將祭物向神獻上,  
常在聖所向神仰望, 常在神前燒香!  
(副) 常在神前燒香! 常在神前燒香!  
常在神前將燈點亮, 也常向神歌唱!
- 2 聖所並無天然之光, 需要燈臺發光照亮;  
祭司每逢進內燒香, 都要將燈點亮!
- 5 我要讀經接受亮光, 如同神前將燈點亮;  
神聖之光照耀輝煌, 在我心中射放。
- 6 我要唱詩向主頌揚, 猶如祭司向神歌唱,  
頌揚主恩、主愛無疆, 我就將主飽嘗。
- 7 禱告獻上主的馨香, 讀經接受主的亮光,  
唱詩頌揚主的恩賞, 主靈就得通暢!

- 5 I'll read His Word, His light receive,  
E'en as the lamp before Him lit,  
His holy light illum'ning me  
To others I'll transmit.
- 6 Unto the Lord His praise I'll sing  
As holy priests their songs did raise;  
O may my heart be filled with Him  
His love and grace to praise.
- 7 I'll offer Christ to God in prayer,  
I'll read the Word, His light to know,  
For all His grace I'll sing His praise,  
The Spirit then may flow.